

まちにほどける混在郷
—インフラ化する庁舎建築—

21418034 津田 加奈子
指導教員 宮 晶子 准教授

場所と記憶 ヘテロトピ 捉えにくさ
庁舎建築 ふくらんだ道 北区王子

■制作の背景と目的

都市を歩いているふと個人の体験の記憶を思い出したり、見知らぬ誰かの記憶に出会ったりする瞬間がある。例えばそれは路肩に手向けられた花束や、住宅地の切れ目から見える高速道路、霊園と接する細い道かもしれない。切り取った風景はその時々感情や雰囲気とともに記憶されていくと考える。



図1 記憶の断片のスケッチ

このような図面によって記述されることのない都市の「地」の部分で捉える風景は、情報化が進む中でデータに置き換わることのない体験を醸成している。現実世界でのつながりが弱くなった現代社会に対し、異質な要素同士が絡まり合い、連続的に重なった道のような公共建築を提案することを目的とする。

■ヘテロトピ的场所

ミシェル・フーコーは著書『ユートピア的身体/ヘテロトピア』において、ユートピアに対し「現実中存在するが、他のすべての場所に対して絶対的に他なる場所であり、それゆえ他のすべての場所を無化し中性化するような『他なる場所』」をヘテロトピアと呼び、都市において異質性を具現し、時には曖昧さや胡散臭さ、いかがわしさ、危険なかおりを漂わす場所であると述べている。

都市の中で邂逅する風景は、異なる秩序が混在していることによって人々に異物感を残し、体験の記憶として風景に重なり醸成されると考える。

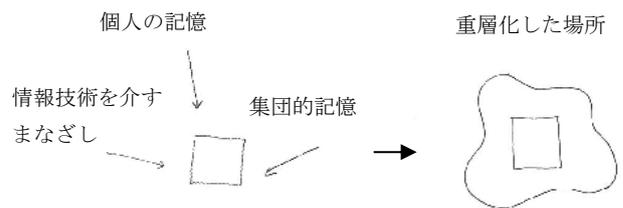


図2 ヘテロトピ的场所のダイアグラム

■都市を支えるもの

i) 集团的な記憶

生老病死に関わる施設は都市に不可欠でありながらも、人から嫌がられたりすることもある。場所に秘められた共同体の記憶を、断絶しながらも包含していくことが必要であると考えます。

ii) これからの庁舎建築

高度経済成長期に建設した初期の庁舎は更新期を迎え、耐震補強や建て替えが始まり、同時にバリアフリーや ICT 化への変化対応不足の解消が行われている。また近年ではマイナンバーを例に行政の電子化の取り組みが進んでいる。納税等の各申請や行政府からの情報提供などはオンラインで完結し、証明書等もコンビニでの発行が可能になり、庁舎を訪れる機会も減りつつある。

しかし、無縁死が年間3万人を超え、引き取り手のない遺骨は死亡地の市町村が一定期間保管した後、火葬や埋葬を行うなど、対応に追われているという事実がある。家族の在り方の変容や貧困化などが社会的背景としてある中、人々が集まる冠婚葬祭のプログラムを“公共”に取り込んでいくこと必要なのではないか。

今後 IT 化が進むにつれ、データを管理するための執務空間が縮小、単純化していくことが予想される。様々な人生の節目におかれた人々が出会う廊下やホールなどの公共スペースこそが、オフィスビルと化す庁舎建築を町に溶け込ませ豊かな場所にすることができると考える。

■敷地

i) 概要

北区王子は武蔵野台地の崖に位置し、石神井川が作った溪谷にある。その歴史は古く紀元前後には環濠集落が形成されており、江戸時代には庶民の身近な行楽地として栄え浮世絵にも描かれていた。しかし現在では孤独死発生率や少子高齢化率、失業率が区内でも非常に高くなっている。王子駅西側に位置する北区庁舎は点在しており、古いもので築 56 年が経過しているため設備の老朽化が著しく、また平成 7 年の耐震診断で一部の庁舎が耐震基準を満たしていないことが明らかになった。北区は平成 17 年から今後の庁舎の在り方について検討を重ね、平成 29 年に国立印刷局王子工場用地の一部を北区新庁舎建設予定地として取得することが決定した。行政サービスやバリアフリー性能の向上に加えて、王子駅前周辺全体のまちづくりデザインの検討が求められている。

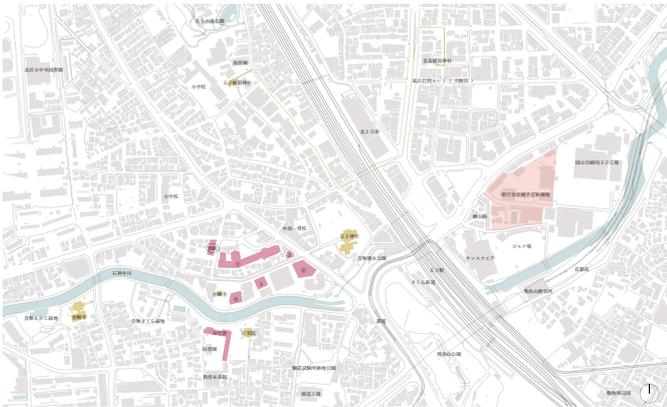


図 3 敷地周辺図

ii) リサーチ

王子駅前には京浜東北線が停車し、その他 JR 線や貨物線が築堤上を、東北新幹線が高架上を走行している。また崖線や石神井川、飛鳥山、軍需工場跡の大きな区画に建つ工場群などの自然的・人工的境界が町を歩く人の体験を断片化し、王子という町の捉えにくさをつくっていた。



図 5 全体計画概要図

■設計

i) プログラム

既存の分棟型庁舎の機能を保持したまま改築し、区が取得予定である工場用地の一部に新しい庁舎を新築する。またセレモニーホールや結婚式場を庁舎内に計画し、かつて共同体の近くにあった冠婚葬祭に関わるプログラムを付加する。王子駅前に両方が機能を補完し合うふくらんだ道のような庁舎を計画することで王子駅全体を新しい道でつなぎ直す。

ii) 手法

線状の空間を連続的につなげていくことで、接続と切断を繰り返しながら、捉えにくさを生み出している境界を横断することを考える。

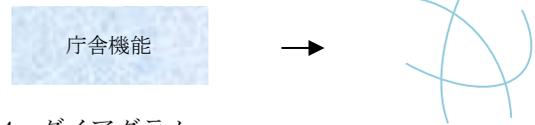


図 4 ダイアグラム

iii) 全体計画

既存の庁舎の機能をほどこき、新しいからまりしろをつくって周辺の住宅や高層マンション、墓地などの風景を巻き込みながらつなげる。ほどけた道は王子駅を横断しふくらみながら重なり合って新しい庁舎を構成していく。異なる秩序の混在の中に、体験の記憶が重なり風景が重層化していく空間を提案する。

【参考文献】

- 1) ミシェル・フーコー (2013) 『ユートピア的身体/ヘテロトピア』水声社.
- 2) 坂牛卓 (2017) 『建築の条件 「建築」なきあとの建築』LIXIL 出版.
- 3) 加藤政洋 (2011) 「都市空間のヘテロトポグラフィ」 <<http://10plus1.jp/monthly/2011/11/issue02.php>>
- 4) NHK スペシャル取材班 (2012) 『無縁社会』文藝春秋.